リスク社会と民主主義

中山竜一

大阪大学 大学院法学研究科

現代をとりまく状況

・東日本大震災と福島第一原発事故
・新型コロナウイルスの感染爆発とその対策
・地球温暖化（地球沸騰）→異常気象、災害の頻発と激甚化、食糧危機
・経済的格差の拡大→移民問題、外国人排斥、政治の変質
・生成AIの利用拡大とそれに対する不安
・グローバルな地政学的状況の変化と戦争　etc.



「リスク社会」論の再検討

1. 「リスク社会」とは？

U. ベック著　「リスク社会　Risikogesellschaft 」（1986）

科学技術 → **計算不可能なリスク**（= **不確実性**）の時代

- 【参考】
  - ・人の手が生みだしたリスク （A. ギデンス）
  - ・社会それ自体が実験室に （B. ラトゥール）

2. リスク理解の二つの極

- 客観主義的なリスク理解（工学, 医学, 保険実務, 等）

  → 「望ましくない事象の発生確率×予測される損害規模」

- 主観的リスク理解（経済学, 心理学, 社会学, 等）

  → 「（将来生じるかもしれない）望ましくない事象」

参考）「リスク」と「不確実性」の峻別 （F. ナイト、ケインズ）

3. リスクへの対応

・因果関係や蓋然性(=確率)がある程度わかっているリスク

← 未然防止(prevention)・工学的対処・保険

・計算不可能なリスク(不確実性)

← 事前警戒=予防原則(precautionary principle)
リスクの現実化に備えての事前の準備

※ 費用便益分析とリスク・トレードオフについて

4. 計算不可能なリスクと向き合う

(a) リスク判断の個人化・市場化　→　新自由主義へ？

(b) リバタリアン・パターナリズム　→　知者の統治へ？

(c) 熟議民主主義（deliberative democracy）

ミニパブリックス　（コンセンサス会議、計画細胞 etc.）、事前防災の取り組み

※　現実的な方策は、これらの組み合わせ。ただし、どれについても必須の前提は、歪曲のない情報やデータが公開されていること！

5. リスク社会と民主主義

リスク社会＝不確実性の全面化

→ 「社会そのものが実験室に」（B.ラトゥール）
→ 「専門家におまかせ」という訳にはいかない
→ 全てのステイクホルダーが「自分事」として熟議に参画
（フレーミングの多様性を相互修正） → 熟議民主主義

他方、
→ 専門家、科学的知見・データ・エビデンスへの不信
→ SNSやネット空間を通じ、多くの人々に伝搬、共有され、多数派に
→ 非理性的なポピュリズム（多数決民主主義の負の側面）へ

6. おわりに

・リスク社会からもたらされる一つのシナリオ

不確実性：いまあるものを失うことへの不安

↓

非理性的なポピュリズム

＋新自由主義的エリート支配

↓

民主主義の危機（専制的統治へ？）

・ だからこそ、

科学的知見（自然法則、物理的現実）への敬意と

「法の支配」が、ますます重要に！